

大切な読者の皆様へ

3年ぶりに新刊を出すことになりました。

『コーヒーが冷めないうちに』著者の川口俊和です。

タイトルは『さよならも言えないうちに』です。

僕が勝手に『うちにシリーズ』と呼んでいる『コーヒーが冷めないうちに』『この嘘がばれないうちに』『思い出が消えないうちに』に続く第4弾となります。

これまでの作品では、『コーヒーが冷めないうちに』から7年後が『この嘘がばれないうちに』で、その7年後が『思い出が消えないうちに』でした。

なので、今回は『思い出が消えないうちに』の7年後の話なのでは？ 時田数の旦那はどんな人物なのか？ 白いワンピースの女の後に現れた初老の紳士は何者なのか？ それが明らかになるのではと期待されていた方も多いと思います。

でも、残念ながら、今回それらの謎はまだ謎のままとなります。

実は今回の物語は、『コーヒーが冷めないうちに』の翌年の話だからです。

なぜ、今回、時間の流れを無視して『コーヒーが冷めないうちに』の翌年の物語を書いたのかというと、僕の中で飛ばした7年間の中にも沢山のエピソードがあったのではないかとそれらのエピソードを取りこぼしているのではないかと、という思いに駆られたからです。

僕の父が亡くなったのは僕が小学生の時です。38歳という若さでした。

心臓の病気で入退院を繰り返していましたが、ある朝、知らないおじさん達に囲まれていて、母にお婆ちゃんの部屋に行つてと追い出されたのを覚えています。突然の別れでした。

思い返せば、父にはさよならも言えませんでした。

あの日に戻れたら、僕は元気に50歳になったよと伝えたい。

父より長生きできていることを伝えて安心させたい。

そんな思いがキッカケでこの物語は生まれました。

世界中の多くのさよならに寄り添えたら幸いです。

いつも ありがとうございます!!  
川口俊和